

(様式第1号)

平成27年度 第1回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成27年7月15日(水) 10:00~12:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 中田 伊都子 副委員長 金本 ひとみ 委員 中上 二郎 委員 中村 美津子 委員 桐村 廣子 委員 成田 直美 委員 守上 三奈子 委員 佐々木 春美 委員 荒谷 芳生 委員 田中 徹 委員 和泉 みどり 教育長 福岡 憲助
欠席者	委員 伊田 義信 委員 平井 郁子
事務局	社会教育部長 中村 尚代 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課 宇田 明日香 生涯学習課 松本 かづみ 青少年育成課 上田 裕之
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 委員自己紹介, 事務局職員自己紹介
- (5) 委員長, 副委員長の選出
委員長1名・副委員長1名
- (6) 議題
 - ア 平成26年度放課後子どもプラン利用状況等について
 - イ 平成26年度決算及び平成27年度の予算について

ウ 平成27年度の取組みについて

エ その他

(7) 第2回運営委員会開催の日程について

(8) 閉会

2 提出資料

- ・ 芦屋市放課後プラン（子ども教室型放課後対策）事業実施要綱
- ・ ひょうご放課後プラン事業実施要綱
- ・ 地域で“共育”土曜チャレンジ学習事業実施要綱
- ・ 平成26年度芦屋市放課後子どもプラン事業報告について（資料1）
- ・ 平成26年度決算と27年度の予算について（資料2）
- ・ 平成27年度の取組みについて（資料3）
- ・ あしやキッズスクエアについて

3 審議内容

<中田委員長>

議題に入る前に放課後子どもプランの概要を生涯学習課より説明をお願いします。

<事務局：宇田>

放課後子どもプランの概要を簡単にご説明申し上げます。

放課後子どもプランは、市内の各小学校区において、放課後や週末等に小学校施設等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としています。

具体的な取り組みとしては、安全・安心に遊べる場所の提供を行う校庭開放事業と、昔遊びや異世代交流を行う教室型事業があります。

放課後子どもプランは県の補助事業として実施しており、補助率は、県が3分の2、市が3分の1となっています。

事業運営につきましては、「ひょうご放課後プラン事業実施要綱」及び「地域で“共育”土曜チャレンジ学習事業実施要綱」「芦屋市放課後プラン事業実施要綱」に基づいて行っていますので、資料として添付させていただいております。

この運営委員会の役割につきましては、特に事業の推進に関することや、事業における安全管理対策について、委員の皆様にご意見いただきたく思っております。どうぞ宜しくお願いします。

<中田委員長>

では、議題アの平成26年度放課後子どもプランの利用状況等について事務局よりお願いします。

<事務局:宇田>

(配布資料:「平成26年度芦屋市放課後子どもプラン事業報告について(資料1)」に基づき説明)

<中田委員長>

ありがとうございました。何かご質問はありますか。

—意見なし—

<中田委員長>

続きまして議題(イ)平成26年度放課後子どもプランの決算と27年度の予算を事務局よりお願いします。

<事務局:宇田>

(配布資料:「平成26年度決算と27年度の予算について(資料2)」に基づき説明)

<中田委員長>

ありがとうございました。何かご質問はありますか。

<中田委員長>

コーディネーターの経費はどのようにお支払されていますか。

<事務局:宇田>

1時間あたり1,440円お支払をしており、各教室、順番にコーディネーターをお願いしております。

<中田委員長>

ありがとうございます。

それでは、議題(ウ)平成27年度の取組みについて事務局よりお願いします。

<事務局:宇田>

(配布資料:「平成27年度の取組みについて(資料3)」に基づき説明)

<事務局:上田>

(配布資料:「あしやキッズスクエアについて」に基づき説明)

<中田委員長>

ありがとうございました。何かご質問はありますか。

<中上委員>

あしやキッズスクエアの登録人数について、説明をいただきましたが、小学校ごとに学年のクラス数も異なるため、登録人数だけではなく、クラス児童数も把握できると参考になります。

<成田委員>

質問ではないですが、山手小学校のスタッフについて、資料では山手コミスクとなっていますが、スタッフ全員が山手コミスクから出ているわけではなく、山手コミスクは窓口となっておりますので補足させていただきます。

<中田委員長>

新しいプログラムなので、興味がありますが、平成28年度実施予定の小学校には、個別に説明があるのでしょうか。

<事務局:上田>

はい、今年度についても、来年度実施する予定の宮川小学校・朝日ヶ丘小学校・浜風小学校に学校関係者・PTA関係者・コミスク関係者の方に集まっていただき、順次説明をさせていただく予定としています。

<中田委員長>

説明の時期はいつ頃か決まっていますか。

<事務局:上田>

まだ、どこにもお声かけできていないのですが、7月か8月の夏休み中に関係者係者の方にキッズスクエア開催準備の説明をしたいと考えております。

<中田委員長>

先ほど、成田委員から窓口をコミスクがしているとお話いただきましたが、運営方法については説明会の時に相談させていただき、マネージャーの方などに声をかけるといったことを事務局がしてくださるということによろしいでしょうか。

<事務局:上田>

去年度に関しましては、前例がない状態で山手小学校・精道小学校・潮見小学校は実施しましたので、イメージが描きにくい形でのスタートでしたが、今年度につきまして、現在実施していただいている3校を参考にしながら、ご説明させていただくことができますので、開催にあたってイメージは少し持っていただきやすいと思います。

<中田委員長>

先日、山手小学校に行かせていただいた時に、キッズスクエアをやっていて、ビブスを着た子どもたちがとても楽しそうにグラウンドで遊んでいました。

それ以外に遊んでいる子もいたので、その子どもたちはキッズスクエアに登録していない子どもたちでしょうか。

<事務局:上田>

山手小学校については、キッズスクエアは14時30分に5時間目が終了した時点でスタートします。その後6時間目が15時15分に授業が終了し、すべての子どもが参加可能となります。その一方で放課後～16時までの時間については、キッズスクエアに登録・当日参加していない子どもも授業終了後に学校の管理のもと放課後として残ることが可能です。つまり、14時30分～16時まではキッズスクエアに登録している子と登録していない子が混在して遊んでいることとなります。16時から17時については、キッズスクエアに登録している子どもが遊ぶ時間となっております。

<中田委員長>

キッズスクエアに登録していない子どもはキッズスクエアの時間になるとちゃんと帰りますか。

<成田委員>

今は、帰るようになりました。最初の頃は、遊べないことが理解できなかったこともありましたが、今は子どもたちも理解できています。

<佐々木委員>

随時登録できるということで、登録を進めるようなことはされているのでしょうか。途中から登録する子どもも増えてきていますか。

<成田委員>

子どもたちに簡単に説明はしますが、結局のところ、親が500円の保険料を支払うか支払わないかが問題です。

山手小学校のスタッフは、保護者や保護者のOBや地域のメンバーがしておりますので、顔見知りの人も多いので、直接お母さんにお声かけすることはしています。

<佐々木委員>

お母さんたちにも、子どもたちから、「楽しそう！キッズスクエアに入りたい。」と伝えてもらい、登録人数が増えるといいですね。

<事務局:上田>

開始当初は540名の登録し、現在766名の子どもが登録しています。226名の子どもたちについては、友達が遊んでいる姿を見たり、保護者が利用したいということで途中から登録している子たちです。最近減りましたが、今でも週10名～20名の

方にキッズスクエアの登録について問い合わせをいただいている状態です。

<中田委員長>

潮見の方で何か聞かれていることはありますか。

<金本委員>

参加した子どもたちは、2年生・3年生がたくさんいるので、すごく楽しく過ごせているそうです。居心地がよいおじいちゃん・おばあちゃん達がスタッフをしてくれているので、ガサガサしたイメージもなく、参加されている子どものお母さんは、このままの少人数がよいなという意見も聞いています。キッズスクエアで色々な経験もさせてもらっているのですが、夏休みも通わせたいものの、潮見小学校は1年生が2学期からの参可となっているため、兄弟関係で通わせたいお母さんに、どうにかならないか尋ねられました。

<佐々木委員>

1年生は、なぜ2学期からの開始になるのでしょうか。

<事務局:上田>

去年の準備段階で各学校とお話させていただいたところ、潮見小学校については、1年生は「まず、学校に慣れることが大事」とご意見をいただきましたので、2学期からの開始となっております。

<佐々木委員>

次年度から実施する学校においては、今年度の経緯も踏まえ、5月か6月頃から1年生も参加できるようにし、夏休みに向けて兄弟で参加できるようにできればいいですね。

<事務局:上田>

現場にもやはり混乱があるので、事務局としても、どちらがよいのか、判断しにくい部分はありますので、潮見小学校の保護者の方からはご不満がおりかもしれませんが、「1年生は2学期から」というのは悪いアイデアではないように思います。

<守上委員>

すまいるクラブに関しては、どういう形でキッズスクエアと関わりを持っているのでしょうか。次年度は浜風小学校が実施校にあたり、浜風学びクラブも参考にさせていただきたいので…。

<事務局:長岡>

すまいるクラブは1年生を対象としていたものの、参加人数もすごく多かったので、キッズスクエアのように全学年を対象とすると、使用できる部屋の問題や、現状を維持したままの移行は難しいと判断され、今は活動をされていません。

<田中委員>

プログラムの実施という意味では、色々な条件があり、うまく移行していただけなかったものの、運営委員会の中にはS m i l eねっとの方にも入っていただき、協力していただいております。

<中田委員長>

中村委員、何かお気づきの点などはありませんか。

<中村委員>

皆さんの意見を聞かせていただき、現状を把握することができました。

<桐村委員>

登録者は30%程度なのですね。

もう少し参加率は高いように思っていたのですが…、それでも運営される側は大変ですよね。

<事務局:上田>

昨年、守口市など盛んに活動されている市を参考にさせていただきましたが、登録率は平均40%、多い所でも50%でした。

そういった状況から、芦屋市の登録率は多くもなく、少なくもなく、適正なように思います。

<中田委員長>

今後、校区によって参加率のばらつきは出てくるかもしれませんね。

<事務局:上田>

精道小学校のように、四方八方から、高低がなく、通える校区につきましては、登録・参加率が高くなっています。山手小学校のように高低差があったり、潮見小学校のように校区の広い小学校については、参加率が少ないように思います。地域の立地が影響してくるように思います。

<中田委員長>

昨年度の運営委員会で、中上委員より下校時が心配だというご意見をいただいていたと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

<事務局:上田>

現在は、日没までの時間も長いので、防犯的な面で問題は起きていませんが、帰りがけにお友達とトラブルになってしまうこともないわけではないですが、そのあたりも、学校側や留守家庭児童会とお話させていただきながら、対応しています。また、夏休みも迎えますので、登録児童のすべてに夏休みの注意点など記載した手紙を配布し、保護者の方にも意識を持って協力していただきたいことを再度促していきたいと思っております。

<金本委員>

預けていたらよいと思っている保護者の方も中にはいらっしゃるのが現状です。スタッフのシルバーセンターの方が「涼風町まで一人で帰らせるのがとても不安だ。」ということを抑っていて、「友達と参加してもらえると帰りも安心する。」という意見も聞きます。

友達を誘うことが苦手な子もいるので、この機会に友達を誘うことが経験でき、すごく良かったという意見も聞くことができました。

留守家庭のように時間が決まっている下校はよいと思うのですが、個々に帰る時間が異なるというのは、やはり心配ですね。

気になるお母さんは、途中まで迎えに来ています。そういうお母さんを広めていってほしいというのは、伝えています。

<事務局:中村>

先月、生涯学習課長の長岡と東京に行く用事がありまして、先進地の小学校を二箇所ほど視察することができました。そのうちの二箇所が、PTAの保護者の方々を巻き込み、下校時の5時だったら5時に、PTAの方が何名か入口のところに来られて帰宅する方面のポイントの箇所まで、子どもたちを送っていくという取組をされていました。

この事業が子どもを預けられるという認識ではなく、自分の子どもが参加しているので、保護者の方も一緒に協力しようと思っていただけると本当に実りのある事業になると思います。近辺では、こういった事業を実施しているところはないので、今後、どのように保護者を巻き込んで充実させていけるかというのが、芦屋市の課題であり、この事業を成功させる要だと思います。

昨今、放課後の子どもたちの安全がすごく危惧されているので、その中で校内で、校庭開放を充実させた形でこの事業を実施できることは素晴らしいことだと思いますので、保護者の方も、何かご協力していただけると有り難いと思います。そういう形で運営できると、この事業を中心となってくださっている方や現在支援してくださっている方の負担が軽くなっていくように思います。

人数の参加を見ていても、本当にばらつきがありますので、数人の時もあれば80人近くの参加者の日もあり、目の届く範囲というのが心配になります。そういったところも担当者は視野に入れていくべきだと思います。

<中上委員>

前年、精道中校区の通学路の安全推進協議会委員をやらせていただきました。1年後との交代で今年は潮見地区の予定だったのですが、山手の阪急芦屋川で事故があったため、山手中校区を担当しているのですが、よく問題として挙がっているのが、あゆみ橋です。抑止として防犯カメラが1つついているものの、ボタンを押さないで作動しないと聞いています。通学路の安心・安全を問題視しているわりには、小さなお子さんが危険な緊急時にボタンを押せると思いますか。

市によれば、防犯カメラについて、たくさんの予算がついている市もありますが、芦屋市は県から8万円・市から8万円の合計16万円の補助だけです。

あとは、自治会・防犯グループで対応してくださいと無責任ではないでしょうか。

潮見小学校のキッズスクエアについては、スタッフがシルバー人材センターの方であるならば、帰宅時も考慮した少し延長時間の賃金を付与し、子どもたちの帰りの時間に見守りしていただけるような予算をつけるようにするなど、優先して考えていくべきではないでしょうか。

事業に保険をかけてられると思いますが、保険で済むというのはマイナス要素です。

最近、芦屋警察の防犯グループに話を聞いたところ、今年の1月～6月までの間に芦屋市は痴漢の件数が突出していました。あゆみ橋はまっすぐな橋ではなく、最後、斜めになっているので、見渡すことができません。

課題として認識しているのであれば、もう少し、安全・安心について市としても動いていくべきではないでしょうか。

<事務局:中村>

中上委員が仰っていただいた「防犯カメラ」の件につきましては、6月議会でも質問があり、今後は市では、地域にご負担をかけるというやり方ではなく、自主的に取り組んでいくことを答弁しております。

南芦屋浜地区の小学校建設の件もあって、通学路に関しては、教育委員会及び市長部局関係者等で地域の安全対策を話し合っていくことにしています。

そういった放課後の安全対策のことがあるので、一旦下校をせずに、校庭開放を実施している学校についても下校時に長い通学路の歩く子ども達の保護者の心配もあり、そういった地域の児童の参加は少ないように思います。

<中田委員長>

松本先生、何かご意見ありますでしょうか。

<事務局:松本>

蛇足になってしまうのですが、去年の運営委員会を受けて、先ほど、日誌と参加者名簿を変更させていただいたという話をご報告させていただきましたが、参加者の「町」を調べたところ、岩園小学校であれば「楠町」の参加人数が少なく、朝日ヶ丘町であれば「東山町」、遠くにお住まいの方は保護者の方が帰りを心配されていることが見受けられます。今年1年間の参加者名簿を参考にさせていただければと思います。

<中上委員>

山手小学校は4.5月の校庭開放の集計がないのは、こういった理由でしょうか。

<事務局:松本>

山手小学校は、もともと、土曜日の校庭開放は実施していなかったため、平日はキッズスクエアが運営しているため、今年度の校庭開放はありません。

<守上委員>

浜風小学校の参加者を見ると、陽光町・若葉町・呉川町といった浜風校区ではない子どもたちも参加されていると思うのですが、この子どもたちが校庭開放中にケガをされ

た場合、保険の適用はされるのでしょうか。

<事務局:松本>

校庭開放の名簿に記載していただいていたら大丈夫です。

<守上委員>

キッズスクエアに登録していない潮見小学校の生徒が、浜風小学校に来られているのかなと思いました。

<中田委員長>

校庭開放の時は、小学生以外の人も学校に遊びに行くことができましたよね。キッズスクエアの場合は、近所の方は遊びに行くことはできなくなったのでしょうか。

<事務局:上田>

校庭で遊ぶことに関しては、小さい子どもさんについては、保護者の方が同伴であれば、一緒に遊んでいただいても大丈夫です。

<中田委員長>

中学生はどうですか。

<事務局:上田>

これから、学校側から何か要望があれば、変わるかもしれませんが、キッズスクエアについては、特に取決めはしておりませんので、今までの校庭開放に準じて遊んでいただいで構いません。

<中田委員長>

中学生の子がサッカーなど遊ぶ場所が公園で制限されているので、下校したあとに小学校に寄る姿を見たりするので、そういうことができなくなるのかなと心配になり質問させていただきました。

<中村委員>

安全・安心については、とても大切なことだと思いますので、老人クラブの中に登下校の見守りをしていただいているクラブもあるので、もう少し広げる形でお声かけさせていただこうと思います。

<中田委員長>

ありがとうございます。ぜひ、お願いいたします。

<事務局:宇田>

市民の方から、土曜日の校庭開放の参加人数が少ないようであれば、学校施設の有効

活用する上でも、「小学校ごとに見直していく必要がないのか。」という意見をいただきましたので、資料1の2Pに各小学校の土曜日の参加人数を一覧にさせていただきました。昨年の運営委員会でも委員の皆さまにご意見をいただきましたが、生涯学習課としましては、土曜日の校庭開放につきましては、参加人数は少ないものの、保護者と一緒に鉄棒の練習をしたり、働いている保護者の方は、公園よりも管理人さんがいらっしゃる校庭開放で遊ばせる方が安心するという意見もいただいておりますので、土曜日の校庭開放については必要性を感じておりますので、委員の皆さまも土曜日の校庭開放についてご意見等お耳に入りましたら、教えていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

<中田委員長>

情報ありましたら、事務局の宇田さんまでご連絡をお願いいたします。

<佐々木委員>

昨年で傷害保険を使ったケースは何件くらいありましたか。

<事務局:宇田>

昨年は例年よりも多く13件ありました。

<佐々木委員>

小さいケガから大きなケガまで色々なパターンに対応できているということでしょうか。

<事務局:宇田>

13件のうち、子どもさんだけでなく、管理人さんのケガも含んでいます。

<佐々木委員>

500円の保険料をいただいているわけですね。

<事務局:宇田>

私が説明させていただいている保険につきましては、校庭開放の保険で、500円の保険料を負担してもらっているのは、キッズスクエアになります。

キッズスクエアは4・5月で保険の活用はどのような感じでしょうか。

<事務局:上田>

今、3件届出を出しています。

突き指をしたので心配で病院に行かれたケース、小学校で転んで額を切ったので救急車で運んだケースもありました。

<佐々木委員>

校庭開放の保険について、口頭で説明をされたと思いますが、資料に記載されていますか。

<事務局:宇田>

今回、お渡ししている資料に校庭開放の保険の内容は記載しておりませんので、次回の運営委員会の時にお渡しさせていただきます。

<中上委員>

校庭開放の場合は、保険料について参加者に負担をお願いせずに、事故が起きた際に生涯学習課で対応されていると思いますが、キッズスクエアの場合は、500円を保護者に支払ってもらうことになり、不満が出てくるケースもあると思います。

預かってもらう時間も長くなっておりませんが、説明できる形で500円の支払いをお願いするべきだと思います。

<田中委員>

もちろん、保険の必要性もありますが、500円を支払ってもらっている大きな理由の一つは、キッズスクエアに参加する児童の保護者に事業に参加している意識を持っていただくことです。現在は、傷害保険だけですが、来年からは保険の見直しをするかもしれません。予算等の兼ね合いもございますので、現時点では、ハッキリお伝えできませんが、担当課としましては、賠償責任保険も必要かと考えております。キッズスクエアの事業の性質をたくさんの方に説明していく必要があります。

<中上委員>

色々な考え方がありますが、キッズスクエアよりも校庭で遊ぶ校庭開放の方がケガをする危険性が高いように思うので、校庭開放の時は保険料の負担がなく、キッズスクエアは500円の負担があるというのは、腑に落ちない部分も感じられます。

<事務局:上田>

キッズスクエアは校庭開放と違い、3季休業中も実施しております。月曜日～金曜日に8時半～17時まで運営していますので、利用者が利用できる時間は増えています。

<事務局:長岡>

校庭開放は、登録制ではありませんので、なかなかお金を徴収するのは難しいと思います。

キッズスクエアの説明の時には、この事業は登録制になるので受益者負担として500円の支払いをお願いする旨をお伝えしましたが、今のところ、保護者の方からのクレームは聞いておりません。

<中上委員>

ケガをした場合に保険の適用があることを把握している保護者と把握できていない保

護者がいらっしやると思いますので、情報を周知していただきたいと思います。

<中村委員>

保険の内容を聞き漏れているかもしれないのですが、保険は対人・対物・本人も対象ですか。

<事務局:上田>

はい。本人も対象です。主に、子どもさんがキッズスクエアにおいてケガなどをして病院に行かれる時に使用される保険です。

<中村委員>

老人クラブの方で対人・対物だけで、本人は別の保険というのがあるので確認させていただきました。

1億円くらいの保険でしょうか。

<事務局:上田>

市等に瑕疵がある場合を除きキッズスクエアは最高100万円です。程度としましては、お見舞金程度と考えていただきたいです。病院に行かれても1日1,000円です。学校の保険と違う部分は、どの保険を使用しても、お見舞い金としてお支払できます。説明会の時にも、保護者の方に「すべてをカバーできる保険ではない。」という趣旨をお伝えしております。

<中村委員>

老人クラブでは高齢なために、安心・安全ということで1人会員100円で対人・対物で最高1億円まで支払われる保険に入っています。

<事務局:上田>

田中課長からお話がありましたように、来年度につきましては検討中ですが、双方のケアができるように、ケガをさせた時に対応できる保険とし、5千万や1億円で試算しているところです。

<和泉委員>

土曜日の校庭開放について、資料を拝見させていただくと、参加人数にばらつきがあるのですが、土曜チャレンジ事業と関わりがあるのでしょうか。

<事務局:宇田>

土曜チャレンジとの関わりではなく、土曜日の参加人数は日誌でしか把握できていないので、参加人数が多い日はコミスクの事業に参加される方も含まれているかもしれません。

<和泉委員>

土曜日だとお父さんも子育てに参加される機会にもなるので、大事な機会だと思います。

<中田委員長>

子どもたちの遊び場が減らないように慎重に検討していかないといけないですね。
もうすぐ夏休みですが、キッズスクエアは、お昼ご飯は学校で食べることはできるのでしょうか。

<事務局:上田>

山手と精道小学校につきましては、一度帰宅していただいて、昼食をとっていただくこととなります。

潮見小学校については、昼食を保管できる専用の場所がありますので、帰らずに利用することができます。

<中田委員長>

外遊びを計画していても、暑いので涼めるお部屋を確保されているのでしょうか。

<事務局:上田>

潮見小学校につきましては、ご配慮いただきまして、通常室内が1部屋ですが、体験プログラムについては、1つの部屋で自由な遊びと体験プログラムが併用の形になりますが、夏休みについては隣の部屋もお貸しいただき、体験プログラムと通常のプログラムが別の部屋で行えるようになりました。

<金本委員>

潮見小学校は夏休み期間中8時半～5時だと思いますがスタッフの方の交代はありますか。

<事務局:上田>

夏休みは、基本午前3名・午後3名で交代します。

<中田委員長>

他にご質問等ないようでしたら、次回の日程を事務局から提案お願いいたします。

<事務局:宇田>

今回は2学期に開催したいと考えておりますので、10月22日(木)15時から17時でお願いします。

<中田委員長>

閉会